

クリスマスカードから抜け出した情景

南光台伝道所の開設 1966年

－ 仙台教会の歴史シリーズ その24 －

小林孝男

はじめに

1963（昭和 38）年 3 月末から 5 月初めにかけて、日本バプテスト連盟内の教会・伝道所、学校などで新生運動が展開されました¹。テキサス・バプテスト連盟からの約 1 億円の指定献金を資金に、1 年余にわたり準備されてきた大きなプロジェクトでした。「各個教会の平常伝道の強化」「東京並びに地方大都市における大伝道集会」「伝道チームによる各個教会伝道」を軸に、「全日本にキリストの光を」を旗印として様々な方法で伝道を展開し、教会にリバイバルを起こし、教会・伝道所の強化と教勢の拡大を目指す取り組みでした。

仙台教会もこの新生運動に参加しましたが、そこで撒かれた種がやがて南光台伝道所開設という実を結ぶことになったと考えるのは、あながち間違いではないでしょう。

1. 新生運動とボートライト宣教師夫妻

南光台伝道所開設にあたっては、C.S.ボートライト宣教師夫妻の熱意ある働きがあったことを忘れてはなりません。夫妻は 1958（昭和 33）年に宣教師として日本に派遣され、東京の中野教会で奉仕しながら 2 年間日本語を学習し、1960（昭和 35）年 7 月に仙台に着任します²。仙台教会は大沼上牧師の時代でした。残念ながら当時の資料はほとんど残っておらず正確なところは分かりませんが、明るくフランクで米国市民の典型のようなボートライト師と、大和なでしこの的なしとやかさと、いつも微笑みを絶やさない楚々としたベティ夫人です。すぐに教会員の中に溶け込み良い働きを行ったことでしょう。

さて、前述の新生運動に仙台教会も参加し、仙台でのプログラム実施のための準備がなされていたのですが、その最中の 1963（昭和 38）年 3 月に、大沼牧師は師の母教会、北九州の八幡教会から招聘を受け、仙台教会を去ることになります。大きなプログラムを間近に控える中、専任牧師不在となった仙台教会で、臨時牧師的な働きを担ってくださったのがボートライト宣教師でした。同師は当時を振り返りこう語っています。「1963 年に新生運動が行われました。その日々は面白くて、私たちは興奮しました。教会はまだ若いし、経験はなくても、大きな予算を取り扱いました。新生運動を準備している最中に、教会は無牧になりました。大変でした。一生の中でストレスの一番多い時はその時でした。それでも私たちはよく勉強しました。教会は成長しました。人々は救われました。今、その日々を思い返すと、神様が私たちを守って導いてくださいましたことが分かります。このことをその時に分かっていたらもっと楽だったでしょう」³。

新生運動の伝道集会は会堂でも開催しましたが、一番大きなプログラムは仙台市公会堂の大ホールを会場に、全市民を対象として行う伝道集会です。この集会のために宣教師夫妻はじめ教会員が力を合わせ必死に準備を重ねてきましたが、結果は成功と言えるものではなかったようです。新聞やテレビによる宣伝など外に対するPRは万端でしたが、しかしながら市民の参加者が期待していた数には、はるかに及ばなかったのです⁴。

当時まだ求道者であったある壮年は、この結果にボートライト師はさぞ落胆しているのではないかと心配しましたが、同師が少しも落胆していない姿にその壮年は驚き、信仰とは何なのかということに目覚めたといえます。そしてこの壮年の家族3人と、求道中の青年2人が、新生運動直後にバプテスマへ導かれ、仙台教会の群れに加えられたのでした。

2. 休暇帰国中の出来事

当時の宣教団では5年に一度、宣教師は休暇帰国し、宣教報告活動や今後の活動のための休養や準備の時間を持つことが制度化されていました。ボートライト宣教師夫妻も1963年7月15日(月)に休暇帰国のため離仙します。幸いその前週に天野五郎牧師が仙台教会に着任したため、様々な引継ぎは順調に行われたはずで

休暇帰国中、5年間の宣教活動報告を米国各地で行った際、ボートライト夫妻は日本での宣教の難しさを率直に語ったことでしょう。仙台で行った新生運動の仙台市民を対象とした大伝道集会の実情も、包み隠さず報告したはずで

『献堂十周年記念文集』(復刻版)⁵に、「仙台第二バプテスト教会」と題し次のような文章が記録されています。これはボートライト師が語ったことを、天野師が書き取ったものです。

「百万都市を目指す仙台に、バプテスト教会がたった一つ!? ミセス・ボートライトの伝道報告を聞いていたミセス・ハウエルはびっくりしました。仙台くらいの町なら、米国では、バプテスト教会だけでも60はあるでしょう。それがたった一つ……。

ハウエル夫人はお母さんのジェンキンスさんにそのことを話しました。ことし80歳になるジェンキンスさんは、それを聞いて祈りの中に確信して牧師であった亡夫の遺してくれたシールズ・ロバック社の持ち株62(7336ドル弱)⁶を仙台第二バプテスト教会設立のために献げる決心をしました。

やがて形成されてゆく仙台第二バプテスト教会は、主のために大いなるわざと、大いなる人物を生み出してゆくでしょう。私はそう確信しています、と話すジェンキンスさんは、娘のハウエル夫人といつもそのために祈り続けていることでしょう。

そしてハウエル夫人の400ドルと合わせた7736ドル(およそ277万余)⁷が今、私たちの信仰の手の中に握られているのです⁸。

二人のご婦人から託された信仰に基づく献金は、ポートライト宣教師の仙台での働きのビジョンを、大きく膨らますものとなったでしょう。ビジョンと決意と希望と熱意を胸に、夫妻は1年の休暇帰国を終え、1964（昭和39）年8月に仙台に戻ります。

3. ポートライト宣教師夫妻のビジョンを受けて

帰仙後、ポートライト宣教師は米国で与えられた大きなビジョンを、まず天野五郎牧師と話し合います。その後の仙台教会の動きは迅速でした。8月27日（木）には緊急に教会連絡会（教会役員と各会責任者で構成）が開催され⁹、市内に伝道所を設置する件が話し合われます。9月6日（日）には常会（現在の仙台教会で言えば、合同例会と総会の機能を合わせ持つような会合）が開催され、伝道所設置の合意のもと伝道所開設委員会が組織され¹⁰、9月13日（日）開催の伝道所開設委員会では、「黒松団地付近を適任地と決定」しています¹¹。

翌1965（昭和40）年4月25日（日）開催の総会で、伝道所開設のため黒松付近に購入する土地に関しては、新役員会に一任することが決まります¹²。その後、具体的な土地の選定作業に入りますが、適任地に出会うまでの役員の方のご苦勞はさぞ大きかったことでしょう。当時役員だった吉永馨さんはこう述べています。

「会員は、あそこがいい、ここがいい、と様々な意見を出しました。当時開発中だった南光台は、まだブルドーザーが土を掘り返していました。関兵という会社が開発したのです。この会社は後に長者番付1番になりました。南光台がいいのではないかというので、皆で何度か見に行きました。分譲住宅地の二区画が欲しいのですが、例の献金額はそれには少し足りませんでした¹³。私は金額の事を知らず、二区画を買おうと主張し、ポートライト師も賛成し、そのまま販売事務所に行き、購買を決めたのです・・・」¹⁴。

9月15日（水）、関兵事務所において、高島正男さん、石田信二さん、藤沢良和さん、ポートライト師たちの立会いの下、第二教会の敷地となる200坪の売買契約に天野五郎牧師がサインをしました¹⁵。購入代金は258万円です¹⁶。「仙台第二バプテスト教会」の設立という信仰のビジョンが、いよいよ現実的なものとなってきたのです。

4. 南光台伝道所の誕生

土地を確保した後は会堂の建築です。資金の関係で簡易プレハブの会堂を建築することとなり、大和ハウスと具体的な交渉が始まりました。詰めに詰めた交渉を重ねますが、それでも資金が70万円ほど不足します¹⁷。そこで仙台教会は1966（昭和41）年1月に常会を開催し、日本バプテスト連盟の回轉資金から借入する決断をします。そのような経過を経て、4月末ようやく施工契約にこぎつけることができました。工費は232万円¹⁸。5月1日（日）に着工し完成は6月30日（木）、プレハブですが待ちに待った会堂が与えられたのです。7月10日（日）に南

光台伝道所開設式兼献堂式、13～17日（水～日）には南光台伝道所献堂記念特別伝道集会を開催。南光台伝道責任者となったポートルイト宣教師とその家族、仙台教会から株分けの石田信二・由紀子夫妻、藤澤良和・雅子夫妻、渡邊淳一さん、そして今井豊・和子親子が力を合わせ¹⁹、仙台第二バプテスト教会設立を目指し、いよいよ南光台での開拓伝道が開始されました。

伝道所開設の少し後、まだ家もまばらでまるで「開拓部落」のような南光台団地に移り住んだある方は、1966年12月末の様子を次のように語っています。「道は未舗装、街灯も十分には設置されておらず、住宅もまばらに点在するだけで、それらの家から光が洩れている。その中で、南光台教会は屋根の上の十字架を下からの投光器で照明し、十字架の下に取り付けたスピーカーから静かに讃美歌が流れていた。それはまさにクリスマスカードから現実に抜け出したような情景だった。今想うと南光台教会の創建時は文字通り『開拓伝道』の表現にふさわしい働きだったと思われる」²⁰。

その後、歳月と共に地域も伝道所も発展し、1983（昭和58）年5月5日（木）、“仙台第二バプテスト教会”として「南光台キリスト教会」が設立されることとなります。

1 『日本バプテスト連盟七十年史』99-113頁

2 資料_19741110_献堂20年の歩み（週報挟み込み）

3 『献堂四十周年記念誌』4-5頁

4 前掲書60頁

5 前掲書43-62頁

6 『献堂十周年記念文集（復刻版）』（1995年発行の『献堂四十周年記念誌』43-62頁に収録）には、「733ドル弱」とあるがこれは校正ミス、「7336ドル弱」が正しい。1989年発行の『福音のためにーポートルイト夫妻の日本宣教31年ー』の29頁には「7336ドル」とある。

7 当時は1ドル=360円の固定相場制

8 前掲書61頁

9 週報復刻版_19640823

10 週報復刻版_19640913、週報復刻版_19640920 メンバーは高島正男、天野貴之、天野五郎牧師、ポートルイト宣教師の4名

11 週報復刻版_19640920

12 週報復刻版_19650502

13 二区画を購入しても土地だけであれば、アメリカでお二人の婦人から託され献金で十分です。ただし、会堂の建築まで考えれば不足するという意味か。

14 『南光台キリスト教会50周年記念誌』7頁

15 週報復刻版_19650919

16 『福音のためにーポートルイト夫妻の日本宣教31年ー』30頁

17 週報復刻版_19660123

18 週報復刻版_19660501

19 週報復刻版_19660424

20 『南光台キリスト教会50周年記念誌』26頁